１３号　令和元年７月１日

＜学校教育目標＞　**ともに伸びる**

校長だより（職員編）

呉市立市阿賀小学校
安宗　誠

主体的・対話的で深い学びへの挑戦③

「振り返り」の質をさらに上げる！

６月２７日の校内研修。石谷健太郎先生が，授業後の協議会で次のようなことを言われました。「今日は，球場１日当たりの観客入場者数を表したのですが，実は，授業の終末では，『今度は，球場１年間当たりの観客入場者数を表してみたいですね。』と，子供たちに投げかけたかったです。」と。石谷先生のこの視点は，野球で言えば，「ホームラン」です。とてもすばらしい視点です。なぜ，この視点がすばらしいのかというと，その視点が，子供たちの「次の学び」や「自主学習」のテーマにつながる働きかけだからです。１単位時間の学びに決して満足させることなく，その学びをもとにして，自ら，さらに広げ，深め，高めていけるように，子供たちを導こうとしているからです。「学び」を「点」でとどまらせることなく，「線」でつなげていけるように・・・。その線も「長い１本線」というよりも，「網の目」や「クモの巣」といったイメージで・・・。

このように考えていくと，終末の「振り返り」の内容は，とても大きな意味をもちます。石谷先生が示された例以外にも，例えば，「新聞広告の中で１万をこえる大きな数を探して，自主勉強で取り組んでみたいです。」というような「振り返り」が，子供たちの中から出てくるといいですね。

では，このような「振り返り」が子供たちの中から出てくるようにするためには，どうすればよいのでしょうか。主には次の４点です。

１点目は，子供たちにとって「必然性のある学習課題」が設定できることです。これがあってこそ，先に述べた質の「振り返り」に到達できるということになります。このことが最も大切なことと言ってもよいでしょう。

２点目は，「振り返り」の時間がとれなかったという授業をゼロにすることです。

３点目は，教師自身も「振り返り例」を用意して，授業に臨み，それを子供たちに示すことです。（「振り返り」が浮かばなかった子供には，教師が示した例を取りあえずノートに書き写すようにさせるとよいでしょう。）

４点目は，教科を問わず，１週間分の自分の「振り返り」の中から，１つを選んで，週末の自主学習のテーマとして取り組ませることです。（中学年以上はできると思います。）

このようにしていくことによって，「わかったできた『振り返り』」から，もっと追究したい内容の「もっと『振り返り』」へレベルアップを図ってまいりましょう。

「必然性のある学習課題」でした！

仲間の考えを聴きたくなる設定でした！

ペアトークも目的意識をもって！

自分の考えを説明できました！

丁寧な机間指導ですね！

ワークショップ型の協議会！